様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １４ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｈ０３２１４

研究課題名（和文）日本語の漢字力評価の方法に関する研究

研究課題名（英文）Research on the Assessment of Japanese Kanji Ability

研究代表者
加納　千恵子（KANO, Chieko）

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：９０２０４５９４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　8,500,000円

研究成果の概要（和文）：外国人学習者に対する日本語教育の中での漢字教育の位置づけを再考し、漢字力の強化を日本語力全体の強化に結びつけることができるような評価のあり方について研究を行った。そして、従来のような漢字の読み書きテストに加えて新たな評価項目として音声を利用した漢字語彙力の評価を追加した「漢字力診断テスト」を開発し、筑波大学グローバルコミュニケーション教育センターの運用するTTBJ（筑波日本語テスト集）の中で初級、中級、上級の漢字力テストを公開した。また、学習者による漢字力の自己評価についてもその可能性を探り、今後の漢字力評価方法の研究への提言を行った。

研究成果の概要（英文）：In the present study, we reconsidered the place of Kanji education within Japanese language education, and examined assessment practices capable of linking improvement of Kanji ability to an overall improvement in Japanese language ability. Then, we developed a "Kanji ability diagnostic test," which, in addition to traditional measures of Kanji reading and writing ability, includes a new component that assesses Kanji vocabulary ability using audio materials, and released Kanji ability tests for the elementary, intermediate, and advanced levels in TTBJ (Tsukuba Test-Battery of Japanese), which is managed by the Center for Education of Global Communication at the University of Tsukuba. Furthermore, we investigated the potential of self-evaluation by the learners of their own Kanji ability, and made suggestions for future research in Kanji ability assessment methods.

研究分野：日本語教育

キーワード：漢字力　評価　テスト　診断　フィードバック

１．研究開始当初の背景

世界中の多くの国で使用されている文字は表音文字であるため、それらに慣れている外国人学習者にとって、表語文字（表形態素文字）である日本語の漢字は、何千・何万という数自体が「文字」という概念を超えていると考えられる。また、１つの言語に複数の文字体系（漢字、平仮名、片仮名等）を混用し文中で使い分けるという、他に類を見ない表記システムも、学習者の日本語の習得を困難にしていると言われる。

グローバル化する世界の言語教育において共通の評価の枠組みを提供する教育スタンダードの先行事例として、ヨーロッパでは「言語のためのヨーロッパ共通参照枠（CEFR）」があり、日本では国際交流基金が2010年に発表した「JF日本語教育スタンダード」があるが、日本語の表記システムの特異性から、特に漢字の運用力をどのように評価すべきかに関してはまだ確固とした指針が示されているとは言い難い状況である。

２．研究の目的

本研究では、(1)外国人学習者に対する日本語教育の中での漢字教育の位置づけを再考し、日本語における漢字の運用力を他の技能との関わりにおいて捉えたものを「漢字力」と名付け、それをテスト等によって測定評価する方法を研究するとともに、(2)評価結果を学生や教師に適切にフィードバックすることによって漢字力の強化を日本語の運用力全体の強化に結びつけるような評価のあり方を探ることを目的とする。

３．研究の方法

次の5つの方法により研究を進めた。

(1) 筑波大学の留学生センター（2015年度からグローバルコミュニケーション教育センターCEGLOCに改組）において進められてきた日本語のプレースメントテストのWEB化により運用を開始したTTBJ（筑波日本語テスト集＝Tsukuba Test-Battery of Japanese）システムに搭載されている漢字力テストのマルチレベル化を実現し、そのフィードバックの方法について研究する
(2) 外国人学習者の「漢字力」に関するcan-do statements形式の意識調査結果に基づいて学習者による自己評価表を作成する
(3) 外国人学習者の「漢字力」に関して教師による評価のあり方を研究する
(4) 国内外において漢字力テスト、学習者による自己評価、教師による評価等を実施する
(5) 漢字力テストの結果と、学習者による自己評価および教師による評価の結果とを比較・分析する

４．研究成果

(1) 漢字力テストのマルチレベル化およびフィードバック方法の研究

・平成27（2015）年度は、TTBJに格納されている各種の漢字力テストのデータの見直しと改良を行い、初級の漢字力診断テストの結果を学習者に適切にフィードバックするための方法の検討を行った。また、2016年3月に全米日本語教育学会（AATJ）において研究成果を発表し、日本語教育関係者からレビューを受けた。

・平成28（2016）年度は、上級者向けの漢字力診断テストの開発に向けて、音声を利用した新しい漢字テストの形式を考案し、筑波大学CEGLOCの中級・上級漢字クラスにおいて実施した結果について筑波大学CEGLOCの『日本語教育論集』32号で報告した。また、中上級者に対するテストフィードバックの方法についても検討を行った。

・平成29（2017）年度は、9月の第49回日本語教育方法研究会において「漢字力診断テストにおける新しいフィードバック画面の設計」について発表した。また、前年度の試行版テストの結果に基づいて上級者向けの漢字力診断テストを作成し、筑波大学CEGLOCの上級漢字クラスにおいて実施した。その結果に基づいて、2018年4月にTTBJ上で上級の漢字力診断テストを公開するための準備を整えた。

(2)外国人学習者の「漢字力」に関する自己評価表の作成

・平成27（2015）年度は、平成23年度-26年度の科研費による基盤研究(B)「日本語教育スタンダードにおける漢字力の評価に関する研究（課題番号：23320102）において実施した、学習者の漢字力に関するcan-do statements形式の質問紙調査の結果についてまとめ、10月の日本語教育学会2015年秋季大会において発表した。また、日本語レベルによる漢字力の自己評価の違いについて検討した結果を筑波大学CEGLOCの『日本語教育論集』31号で報告した。

・平成28（2016）年度は、学習者の文化圏による漢字力の自己評価の違いについて分析・考察を行い、それらに基づいて学習者による自己評価表の試作を試みた。

・平成29（2017）年度は、学習者による漢字力の自己評価表の改良を試みた。漢字圏の学習者は、母国での初等・中等教育の課程において自己評価そのものに不慣れであるためか、日本語学習においても十分にできているところとまだ不十分なところの差が評価の点数に出にくい傾向があることがわかった。それに対して非漢字圏の学習者は、比較的正確に漢字力を自己評価できる傾向にあるものの、漢字の「書き」に対する評価に関しては、テスト結果に比べて自己評価が著しく低く出ることがわかった。また、レベルによって自己評価の正確さに差が見られること、同程度のレベル・同じ文化圏であっても、自己評価には個人差が見られることから、すべての学習者に適用できる自己評価表を作成す

るのではなく、自己評価をテスト結果のフィードバックに活かす方法を検討することとした。
(3)外国人学習者の「漢字力」に関する日本語教師による評価の研究
・平成 27（2015）年度は、8 月にハワイ大学で開催された第 6 回「日本語教育とコンピュータ」国際会議 CASTEL/J において即時的処理能力の評価と診断的評価について発表し、テストの結果をどのように教師が利用できるか、ポートフォリオとして評価する方法などについて日本語教育関係者からのレビューを受けた。
・平成 28（2016）年度は、7 月に第 62 回 JSL 漢字学習研究会において漢字圏学習者と非漢字圏学習者の漢字力の評価に関して発表した。また、9 月にインドネシアのバリで開催された ICJLE2016 において「非漢字系学習者の＜漢字力＞の養成を目指してー学習者の日本語レベルや属性に応じてー」というパネル発表を行い、日本語教育関係者からのレビューを受けた。
・平成 29（2017）年度は、7 月に第 68 回 JSL 漢字学習研究会において「日本語の漢字力評価の方法」について講演を行い、教師の立場から見た漢字力の評価の問題について日本語教育関係者との意見交換を行った。また、11 月にニュージーランドのオークランド大学において特別講義を行い、日本語の漢字語彙力の学習と評価に関して現地の日本語教育関係者からレビューを受けた。
(4)国内外における漢字力テスト、学習者による自己評価、教師による評価の実施
・平成 27（2015）年度は、筑波大学の CEGLOC 日本語教育部門において年に 2 回プレースメントテストとして漢字力テストを実施し、中上級の漢字クラスにおいて学習者による自己評価および教師による評価を行った。TTBJ が 2014 年 6 月に WEB 公開されて国外でも受験が可能となり、米国カリフォルニア大学、ハワイ大学ほかで TTBJ によるテストが実施された。
・平成 28（2016）年度も、筑波大学においてプレースメントテストとして漢字力テストを実施し、漢字クラスにおいて学習者による自己評価および教師による評価を行った。国外では、米国に次いでインドネシア、台湾、韓国などでも TTBJ によるテストが実施された。
・平成 29（2017）年度も、筑波大学においてプレースメントテストの実施および漢字クラスでの学習者による自己評価、教師による評価を前年と同様に行った。国外では前年までの実績に加えて、米国のアリゾナ州立大学とリード大学、タイのチュラロンコーン大学とスィーパトゥム大学、ドイツのミュンヘン大学、ロシアのモスクワ市立教育大学、中国の大連外国語大学などで TTBJ によるテストが実施された。
(5)漢字力テストの結果と、学習者による自己評価および教師による評価の結果との比較・分析
・平成 27（2015）年度は、4 月に韓國日語教育學會 2015 年度第 27 回国際學術大會において教師による評価と学習者による自己評価との関係について発表した。
・平成 28（2016）年度は、2016 年 10 月に日本語教育学会秋季大会において音声を利用した漢字語彙力テストについて研究成果を発表し、テスト結果と学習者・教師による評価との関係について日本語教育関係者からレビューを受けた。
・平成 29（2017）年度は、8 月に早稲田大学で開催された第 7 回「日本語教育とコンピュータ」国際会議 CASTEL-J において研究成果を発表するとともに、ベトナムの国家大学ホーチミン市校における『漢字教授法セミナー』において漢字力テストに関するワークショップを行った。また、2018 年 3 月に全米日本語教育学会（AATJ）において本研究の 3 年間の研究成果を発表し、日本語教育関係者からレビューを受けた。
　最後に 3 年間の(1)から(5)の研究結果をまとめた冊子「日本語の漢字力評価 –TTBJ における漢字テストの受験・作成マニュアル–」を作成し、配布した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 14 件）

1) 加納千恵子、日本語の漢字力評価の方法―テストによる評価と自己評価―、JSL 漢字学習研究会誌、査読無、10 号、2018、1-8
2) 加納千恵子、筑波大学における日本語漢字教育の理念と実践―BASIC KANJI BOOK シリーズによる漢字の授業―、筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター日本語教育論集、査読無、33 号、2018、1-20
3) 豊田哲也・島田めぐみ・谷部弘子・孫媛、e ラーニング上の日本語学習者の学習プロファイル構築、東アジア日本語教育・日本文化研究（東アジア日本語教育・日本文化研究学会）、査読無、20 号、2018、149-160
4) 濱川祐紀代、「漢字指導のための教室活動」における“漢字 can-do”の特徴―JSL 漢字学習研究会で実施したワークショップの結果から―、JSL 漢字学習研究会誌、査読無、10 号, 2018、39-45
5) 加納千恵子、漢字圏学習者と非漢字圏学習者のための漢字学習と評価の方法、JSL 漢字学習研究会誌、査読無、9 号、2017、1-10
6) 加納千恵子・魏娜、中上級学習者のための音声を利用した漢字語彙テストの試み―上級漢字力診断テストの開発に向けて―、筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター日本語教育論集、査読有、32 号、2017、47-64
7) 濱川祐紀代、非漢字系日本語非母語話者教

師を対象にした漢字学習の方法と意識に関する質問紙調査―調査の手順と調査票の共有―、JSL 漢字学習研究会誌、査読無、９号、2017、28-61
8) 加納千恵子、学習者による漢字力の自己評価について―漢字クラスのレベルによる Can-do statements 調査結果の違い―、筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター日本語教育論集、査読有、31 号、2016、95-106
9) 島田めぐみ・谷部弘子・孫媛、日本語文法認知診断テストの開発に関わる内容分析、東アジア日本語教育・日本文化研究（東アジア日本語教育・日本文化研究学会）、査読無、19 号、2016、197-212
10) 濱川祐紀代、インドネシア人日本語教師の漢字表出の傾向―自由放出法を用いて―、埼玉大学教養学部レベラルアーツ叢書別冊１小出慶一教授退職記念論文集、査読有、2016、170-181
11) 加納千恵子、日本語漢字の学習支援をめぐる問題―学習の評価と学習者の意識―、韓國日語教育學會 2015 年度第 27 回国際學術大會予稿集、査読無、2015、27-34
12) 加納千恵子、外国人の漢字学習を成功させるために―面白く、楽しく語彙学習につなげる―、日本語学（明治書院）、査読無、Vol.34-5、2015、98-108
13) 孫媛・島田めぐみ・谷部弘子、日本語学習支援のための認知診断テストの開発、第二言語習得研究、査読有、18 号、2015、86-102
14) 石井恵理子、思考力としてのことばの力を育てる国語教育へ―対話による授業設計に向けて―、日本語学（明治書院）、査読無、Vol.34-12、2015、22-30

〔学会発表〕（計　30 件）
1) 加納千恵子、オンラインによる漢字力診断テストの報告、2018 Annual Spring Conference of AATJ、 2018 年 3 月 22 日、Marriott Wardman Park Hotel（ワシントン DC, 米国）
2) 濱川祐紀代、タイ人日本語学習者の漢字のレベル観－訪日経験のない大学生を対象に－、タイ国日本語教育研究会第 30 回年次セミナー, 2018 年 3 月 17 日、国際交流基金バンコク日本文化センター（バンコク、タイ）
3) 酒井たか子・小林典子・加納千恵子、多言語環境での言語教育と TTBJ for Kids: Assessment of Japanese Proficiency for Young Learners of Japanese、アリゾナ日本語教師協会セミナー、2018 年 2 月 27 日、アリゾナ州立大学 Art Museum Ceramics Research Center（アリゾナ州テンペ、米国）
4) 酒井たか子・加納千恵子・小林典子、年少者の日本語力の測定、コロラド日本語教育学会 Spring Workshop 2018、 2018 年 2 月 24 日、北コロラド大学 Loveland Center at Centerra（コロラド州ラブランド、米国）
5) 加納千恵子・酒井たか子、Method of teaching and testing Kanji and Japanese vocabulary、オークランド大学日本語日本文化学科、2017 年 11 月 14 日、オークランド大学 CLL Building Room 303（オークランド、ニュージーランド）
6) 加納千恵子、漢字力診断テストにおける新しいフィードバック画面の設計、第 49 回日本語教育方法研究会、2017 年 9 月 16 日、筑波大学第３エリア 3A 棟（茨城県つくば市）
7) 加納千恵子、漢字学習の支援と方法、国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学日本学学部・国際交流基金ベトナム日本文化交流センター主催『漢字教授法セミナー』、2017 年 8 月 26 日、国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学日本学学部（ホーチミン市、ベトナム）
8) 豊田哲也・島田めぐみ・谷部弘子・孫媛、e ラーニング上の日本語学習者の学習プロファイル構築、東アジア日本語教育・日本文化研究学会 2017 年度国際学術大会、2017 年 8 月 26 日、仁川大学（仁川、韓国）
9) 加藤登紀・濱川祐紀代、漢字指導のための教室活動を考える－明日使える教室活動を目指して－、第 69 回 JSL 漢字学習研究会, 2017 年 8 月 26 日、東天神ビル２階（大阪市、大阪府）
10) 加納千恵子・魏娜、漢字力診断テストによる日本語力の評価―初級、中級、上級レベルの診断テストの特徴―、第７回「日本語教育とコンピュータ」国際会議 CASTEL/J IN WASEDA、2017 年 8 月 5 日、早稲田大学早稲田キャンパス 22 号館（東京都新宿区）
11) 加納千恵子、日本語の漢字力評価の方法―テストによる評価と自己評価―、第 68 回 JSL 漢字学習研究会、2017 年 7 月 28 日、目白大学新宿キャンパス 10 号館 508 教室（東京都新宿区）
12) 八田直美・濱川祐紀代、わたしたちの思う「漢字の語彙の難しさ」－難しさ軽減にむけて－、第 67 回 JSL 漢字学習研究会, 2017 年 6 月 24 日、政策研究大学院大学 5 階講義室（東京都港区）
13) 濱川祐紀代、”漢字 can-do ”作成におけるトピック・場面の傾向　―日本語教師対象のワークショップ活動の結果から―、タイ国日本語教育研究会第 29 回年次セミナー、2017 年 3 月 18 日、国際交流基金バンコク日本文化センター（バンコク、タイ）
14) 加納千恵子・魏娜、音声を利用した漢字語彙力テストの開発－上級日本語学習者のための漢字力診断テスト―、2016 年度日本語教育学会秋季大会、2016 年 10 月９日、ひめぎんホール（愛媛県松山市）
15) 魏娜・加納千恵子、中国語系日本語学習者の聴解における漢字語彙の処理－日中

漢字語彙の意味的類似性の影響を主として―、バリ 2016 日本語教育国際研究大会(BALI-ICJLE 2016)、2016 年 9 月 10 日、Nusa Dua Convention Center（バリ、インドネシア）

16) 加納千恵子・濱川祐紀代・谷部弘子・石井恵理子、非漢字圏学習者の＜漢字力＞の養成を目指して―学習者の日本語レベルや属性に応じて―、バリ 2016 日本語教育国際研究大会（BALI-ICJLE 2016)、2016 年 9 月 9 日、Nusa Dua Convention Center（バリ、インドネシア）

17) 酒井たか子・バンバン エコ スギハルタディ、JFL 中等教育学習者のための日本語力テストの開発―インドネシアにおける年少者用 SPOT 実施結果からみえること―、バリ 2016 日本語教育国際研究大会、(BALI-ICJLE 2016)、2016 年 9 月 9 日、Nusa Dua Convention Center（バリ、インドネシア）

18) 石井恵理子、バイリンガル・マルチリンガル幼児家庭への子育て支援―国内の地域における取り組み―、第１回バイリンガル・マルチリンガル（BM）子どもネット学習会、2016 年 8 月 10 日、国際基督教大学（東京都三鷹市）

19) 谷部弘子・島田めぐみ・孫媛、助詞に着目した日本語文法能力測定の試み―タイ語母語話者に対する認知診断テストの結果から―、東アジア日本語教育・日本文化研究学会 2016 年度国際学術大会、2016 年 8 月 5 日、ハワイ大学ヒロ校（ハワイ州、米国）

20) 加納千恵子、漢字圏学習者と非漢字圏学習者のための漢字学習と評価の方法、第 62 回 JSL 漢字学習研究会、2016 年 7 月 30 日、政策研究大学院大学（東京都港区六本木）

21) 孫媛・島田めぐみ・谷部弘子、Formative Assessment in Language Education; the Development of a Diagnostic Japanese Grammar Test、31st International Congress of Psychology、2016 年 7 月 26 日、Pacifico Yokohama（神奈川県横浜市）

22) 濱川祐紀代、非漢字系日本語非母語話者教師を対象にした漢字学習の方法と意識に関する質問紙調査―調査の手順と調査票の共有―、第 60 回 JSL 漢字学習研究会、2016 年 5 月 28 日、東天神ビル２階（大阪府大阪市）

23) 加納千恵子・酒井たか子・小林典子、年少者用 SPOT の開発、2016 Annual Spring Conference of AATJ(全米日本語教育学会)、2016 年 3 月 31 日、Sheraton Seattle Hotel（シアトル、米国）

24) 濱川祐紀代、タイ人日本語教師の漢字表出の傾向―自由放出法を用いて―、タイ国日本語教育研究会第 28 回年次セミナー、2016 年 3 月 19 日、国際交流基金バンコク日本文化センター（バンコク、タイ）

25) 濱川祐紀代、非漢字系日本語非母語話者教師の漢字表出の傾向―自由放出法を用いて―、沖縄県日本語教育研究会第 13 回大会、2016 年 2 月 27 日、琉球大学留学生センター（沖縄県中頭郡西原町）

26) 加納千恵子・魏娜、Can-do statements による漢字力の自己評価について、日本語教育学会 2015 年度秋季大会、2015 年 10 月 11 日、沖縄国際大学（沖縄県宜野湾市）

27) 豊田哲也・島田めぐみ・谷部弘子・孫媛、日本語学習ｅラーニングシステムにおける学習者の小テストの学習活動分析、東アジア日本語教育・日本文化研究学会 2015 年度国際学術大会、2015 年８月 22 日、西南学院大学（福岡県福岡市）

28) 加納千恵子・酒井たか子・小林典子・魏娜、筑波日本語テスト集（TTBJ）による日本語能力の評価―即時的処理能力の評価と診断的評価―、第６回「日本語教育とコンピュータ」国際会議 CASTEL-J 2015 in Hawaii 、2015 年８月 7 日、ハワイ大学カピオラニ校（ホノルル、米国）

29) 魏娜・加納千恵子、TTBJ による WEB 漢字語彙聴解テストの作成および利用、第６回「日本語教育とコンピュータ」国際会議 CASTEL-J 2015 in Hawaii 、2015 年８月 7 日、ハワイ大学カピオラニ校（ホノルル、米国）

30) 加納千恵子、日本語漢字の学習支援をめぐる問題―学習の評価と学習者の意識―、韓國日語教育學會 2015 年度第 27 回国際學術大會、2015 年 4 月 25 日、東國大學校新工學館（ソウル、大韓民国）

〔図書〕（計　2 件）

1) 加納千恵子、NINJAL フォーラムシリーズ６世界の漢字教育 日本語漢字をまなぶ、人間文化研究機構国立国語研究所、2017、81（5-16）

2) 安高紀子・今井新悟・大隅敦子・小野塚若菜・加納千恵子・鎌田修・小林典子・酒井たか子・島田めぐみ・孫媛・野口裕之・村上京子・谷内美智子・谷部弘子・李在鎬、日本語教育のための言語テストガイドブック、くろしお出版、2015、247（86-109，175-194）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
筑波日本語テスト集（TTBJ）：
http://ttbj-tsukuba.org

６．研究組織
(1)研究代表者
加納 千恵子（KANO, Chieko）
筑波大学・人文社会系・教授
研究者番号：90204594

(2)研究分担者
酒井 たか子（SAKAI, Takako）
筑波大学・人文社会系・教授
研究者番号： 40215588

谷部 弘子（YABE, Hiroko）
東京学芸大学・留学生センター・教授
研究者番号：30227045

石井 恵理子（ISHII, Eriko）
東京女子大学・現代教養学部・教授
研究者番号：90212810

濱川 祐紀代（HAMAKAWA, Yukiyo）
目白大学・外国語学部・准教授
研究者番号：40725446

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
魏娜（WEI,Na）
国際交流基金・関西国際センター・日本語教育専門員

石井 奈保美（ISHII, Nahomi）
同徳女子大学（韓国）・講師

直井 恵理子（NAOI, Eriko）
ヌエボレオン大学（メキシコ）・講師

當作 靖彦（TOSAKU, Yasuhiko）
カリフォルニア大学サンディエゴ校（米国）・教授